

湖西市監査委員公告

地方自治法第199条第9項の規定により監査の結果に関する報告を次のとおり決定したので、同項の規定により公表します。

令和6年3月13日

湖西市監査委員 土屋 隆 裕
湖西市監査委員 楠 浩 幸

監査の結果に関する報告の提出について

監査の結果に関する報告を次のとおり提出します。

令和5年度財務監査（後期監査）の結果に関する報告

第1 準拠した基準

この監査は、湖西市監査基準に準拠して実施しました。

第2 監査の種類

この監査は、湖西市監査基準第4条第4項の定期監査として行った同条第1項第3号の財務監査です。

第3 監査の対象

この監査は、別表1に掲げる部課等の令和5年度の財務に関する事務で、次に掲げる会計の区分に応じ、それぞれ定めるものを監査の対象としました。

(1) 公営企業会計 経営に係る事業の管理に関する事務のうち次に掲げるもの

- ア 労務管理の事務
- イ 調定、徴収、現金取扱い又は滞納整理の事務
- ウ 切手等の保管管理の事務
- エ 固定資産又は貯蔵品の管理事務

(2) その他の会計

- ア 調定、徴収、現金取扱い又は滞納整理の事務
- イ 切手等の保管管理の事務
- ウ 備品その他物品（消耗品及び医薬品を含みます。）の管理事務

第4 監査の着眼点

監査の主な着眼点は次に掲げるものとしました。

- (1) 法令に適合しているか。
- (2) 正確か。
- (3) 最少の経費で最大の効果を挙げるようにしているか。
- (4) 組織及び運営の合理化に努めているか。
- (5) 内部統制は有効に働いているか。（重大なミスが見過ごされていないか。）

第5 監査の主な実施内容

1 予備監査

事務局職員が、提出資料を通覧して異常事項や例外事項がないかを確認するとともに、地方公営企業の業務の状況を説明する書類の正確性を計算により確認しました。

2 監査委員監査

調定、徴収、現金取扱い及び滞納整理の事務、切手等の保管管理の事務並びに備品その他の物品の管理事務について実地に検証し確認しました。これらにより異常の有無を確認できなかった事項については、関係職員に質問し、回答又は説明を求めました。

なお、公営企業の経営状況については、年度別に対照させた数値を観察しその異同を通じて問題点の有無を確認しました。

第6 監査の実施場所及び日程

監査は、別表第2に掲げる場所及び日程により実施しました。

第7 監査の結果及び意見

1 監査の結果

第1から第6までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、重要な点においては、法令に適合し、正確で、最少の経費で最大の効果を挙げるようにし、その組織及び運営の合理化に努めていることが認められましたが、別表3に掲げる改善すべき点があったので適切な措置を講じられたい。

なお、第5において検証した公営企業の経営状況に係る数値は、別記のとおりです。

2 意見

地方自治法第199条第10項の規定により本報告に添えて提出する意見は、特にありません。

別表1（第3関係）

○監査の対象部課等

総務部	財政課、税務課
企画部	資産経営課
環境部	環境課、廃棄物対策課、下水道課、水道課
健康福祉部	健康増進課
こども未来部	こども政策課、こども未来課
市民安全部	市民課、保険年金課
都市整備部	土木課
教育委員会事務局	学校教育課、図書館
消防本部	予防課、消防署
市立湖西病院	

別表2（第6関係）

○監査の実施場所及び日程

内容	実施場所	実施年月日
実施通知		令和5年12月12日(火)
資料提出期日		令和5年12月27日(水)
予備監査	監査委員事務局	令和5年12月28日(木)～ 令和6年1月12日(金)
監査委員監査 及び 質問	税務課、土木課	令和6年1月22日(月)
	水道課	31日(水)
	下水道課	2月1日(木)
	市民課西部市民サービスセンター、廃棄物対策課、湖西病院	2日(金)
	財政課、資産経営課、学校教育課、消防署、予防課、図書館	14日(水)
	健康増進課、こども政策課、こども未来課、環境課、保険年金課	15日(木)
	市民課（西部市民サービスセンターを除く）	21日(水)
講評及び弁明、意見等の聴取	監査委員事務局	令和6年2月28日(水)
監査の結果に関する報告決定	監査委員事務局	令和6年3月1日(金)

別表3（第7関係）

○監査の結果

対象課	監査結果及び意見
図書館	<p>図書館の施設使用料の減免について、審査が十分に行われていないものがあつた。</p> <p>適正な事務の執行をされたい。</p>
健康増進課	<p>健康福祉センターの施設使用料の減免について、審査が十分に行われていないものがあつた。</p> <p>適正な事務の執行をされたい。</p>
総 括	<p>平成30年に「受益者負担の原則」と「公平性・公正性の確保」の観点から条例が大きく改正された。</p> <p>施設使用料の減免は特別な措置であることを再認識し、その運用については、慎重に行い公平性や透明性が担保できなければならない。</p> <p>そのためには、減免団体を統一する必要があると考える。</p> <p>適正な事務の執行が行えるよう、公の施設の減免団体の見直しをされたい。</p>

別記（第7関係）

○公営企業の経営状況

【注記】

- (1) 数値は、令和5年度以前5年度分について表示しました。
- (2) 金額及び比率は表示数値のすぐ下の位の数値を四捨五入し、比率、金額の差及び比率の差（ポイントで表示しました。）は表示数値により計算しました。
- (3) 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債を比較するもので、短期（1年）の資金繰りを示す指標として、比率が高いほど資金繰りが順調であることを示します。理想比率は200%以上です。
- (4) 現金預金比率は、流動負債に対する現金預金の割合を示すもので、流動比率と同じく、短期の資金繰りを示す指標です。20%以上が理想値とされています。
- (5) 数値がないものは「-」で表示しました。

1 公共下水道事業（環境部下水道課）

(1) 4月から9月までの職員の時間外勤務の状況（単位：人）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数	10	6	1	-	-
2か月間、3か月間、4か月間、5か月間又は6か月間の時間外勤務の1か月当たりの平均時間が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-

1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員はいませんでした。

(2) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
下水道事業収益 (a)	862,463	693,388	562,492	667,665	665,256
下水道事業費用 (b)	613,921	227,289	219,130	209,982	213,925
純損益 (a-b)	248,542	466,099	343,362	457,683	451,331

下水道事業収益（税抜き）は665,256千円で、前年同期と比べて2,409千円の減収です。これは主に、営業外収益の他会計補助金が3,219千円減少したことによるものです。

下水道事業費用（税抜き）は213,925千円で、前年同期と比べて3,943千円増加しました。これは主に、修繕費の増加により営業費用の処理場及びポンプ場費が6,791千円増加したことによるものです。

損益では451,331千円の純利益を上げ、前年同期と比べて6,352千円の減益です。これは、上記の他会計補助金、処理場及びポンプ場費に係るもの以外では、主に営業費用の管渠費及び総経費の増加によるものです。

(3) 9月末日現在の資本的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
資本的収入 (a)	105,873	151,971	195,753	95,815	135,143
資本的支出 (b)	448,164	399,944	562,929	431,495	432,721
差引不足額 (a-b)	△342,291	△247,973	△367,176	△335,680	△297,578

資本的収入（税抜き）は135,143千円で、前年同期と比べて39,328千円増加しました。これは主に、他会計出資金と受益者負担金が増加したことによるものです。

資本的支出（税抜き）は432,721千円で、前年同期と比べて1,226千円増加しました。これは主に、企業債償還金が増加したことによるものです。

(4) 9月末日現在の流動比率及び現金預金比率

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
流動資産（千円:a）	194,116	392,460	298,173	369,911	491,348
現金預金（千円:b）	124,348	302,471	149,766	219,706	322,291
流動負債（千円:c）	324,256	345,051	363,829	384,456	472,108
流動比率 (%:a/c×100)	59.9	113.7	82.0	96.2	104.1
現金預金比率 (%:b/c×100)	38.3	87.7	41.2	57.1	68.3

流動比率は104.1%で、前年同期より7.9ポイント上昇しました。現金預金比率は前年同期より11.2ポイント上昇して68.3%です。

2 水道事業（環境部水道課）

(1) 4月から9月までの職員の時間外勤務の状況（単位：人）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が80時間を超えた職員の延べ人数	2	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数	8	4	9	5	9
2か月間、3か月間、4か月間、5か月間又は6か月間の時間外勤務の1か月当たりの平均時間が80時間を超えた職員の延べ人数	1	-	-	-	-

1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数は9人で、前年より4人増加しました。

なお、1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の実人数は3人で、時間外勤務が45時間を6か月連続して超えた職員は1人でした。

(2) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
水道事業収益 (a)	566,402	497,332	563,072	559,324	552,039
水道事業費用 (b)	464,931	448,241	465,785	477,062	471,793
純損益 (a-b)	101,471	49,091	97,287	82,262	80,246

水道事業収益（税抜き）は552,039千円で、前年同期と比べ7,285千円の減収です。これは主に、時間帯別料金の実証実験における減免により給水収益が減少したことによるものです。

水道事業費用（税抜き）は471,793千円で、前年同期と比べ5,269千円減少しました。これは主に、技師不足による修繕及び工事の遅れにより営業費用の資産減耗費並びに受託給水工事費が減少したことによるものです。

損益では80,246千円の純利益を上げました。前年同期と比べると2,016千円の減益になりました。

(3) 9月末日現在の資本的収支（税抜き）

（単位：千円）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
資本的収入 (a)	-	-	-	-	5,357
資本的支出 (b)	79,372	74,496	89,715	78,319	182,040
差引不足額 (a-b)	△79,372	△74,496	△89,715	△78,319	△176,683

資本的収入（税抜き）は、5,357千円で、前年同期に比べて工事負担費が皆増しています。

資本的支出（税抜き）は182,040千円で、前年同期に比べて103,721千円の増加です。これは主に、前年度からの繰越工事による水源改良費及び配水管拡張改良費の工事請負費が増加したことによるものです。

(4) 9月末日現在の流動比率及び現金預金比率

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
流動資産（千円:a）	1,489,001	1,678,812	1,790,086	1,851,224	1,711,167
現金預金(千円:b)	1,605,960	1,708,959	1,864,262	1,668,728	1,513,887
流動負債（千円:c）	195,751	170,919	116,630	148,997	143,066
流動比率 (%:a/c×100)	857.6	1,047.3	1,687.4	1,242.5	1,196.1
現金預金比率 (%:b/c×100)	820.4	999.9	1,598.4	1,120.0	1,058.2

流動比率は1,196.1%、現金預金比率は1,058.2%で、短期の資金繰りに不安はありません。

3 病院事業（市立湖西病院）

(1) 4月から9月までの職員の時間外勤務の状況（単位：人）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員の延べ人数	1	-	1	-	-
1か月間の時間外勤務が80時間を超えた職員の延べ人数	7	-	2	2	-
1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数	26	10	16	26	8
2か月間、3か月間、4か月間、5か月間又は6か月間の時間外勤務の1か月当たりの平均時間が80時間を超えた職員の延べ人数	2	-	-	-	-

1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員はいませんでした。80時間を超えた職員もなく前年度より延べ2名減少、45時間を超えた職員の延べ人数は8人で、前年度より18人減少しました。1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の実人数は3人で、時間外勤務が45時間を超えた月数は、1人が4か月、2人が2か月で、2か月連続していた職員は1人でした。

(2) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
病院事業収益 (a)	1,754,113	1,681,564	1,569,199	1,648,441	1,670,885
病院事業費用 (b)	1,415,144	1,424,798	1,353,957	1,343,481	1,380,856
純損益 (a-b)	338,969	256,766	215,242	304,960	290,029

病院事業収益（税抜き）は1,670,885千円で、前年同期と比べ22,444千円増収しました。これは主に、新型コロナウイルス感染症が一段落し回復傾向になり入院収益が増加したことによるものです。

病院事業費用（税抜き）は1,380,856千円で、前年同期と比べ37,375千円増加しました。これは主に、常勤医師の増加による給与費が増加したことによるものです。

損益では290,029千円の純利益を上げました。前年同期と比べると14,931千円の減損になりました。

(3) 9月末日現在の資本的収支（税抜き）

（単位：千円）

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
資本的収入 (a)	31,451	29,430	29,264	34,768	32,307
資本的支出 (b)	112,868	83,855	87,797	72,925	97,939
差引不足額 (a-b)	△81,417	△54,425	△58,533	△38,157	△65,632

資本的収入（税抜き）は32,307千円で、前年同期と比べて2,461千円減収しました。これは主に、国庫補助金が皆減したことによるものです。

資本的支出（税抜き）は97,939千円で、前年同期と比べて25,014千円増加しました。これは主に、建設改良費のリース資産購入費が増加したことによるものです。

(4) 9月末日現在の流動比率及び現金預金比率

区 分	元年	2年	3年	4年	5年
流動資産（千円:a）	814,154	881,876	884,923	1,290,336	1,575,727
現金預金(千円:b)	427,597	516,478	561,021	865,610	1,202,870
流動負債（千円:c）	252,596	182,551	209,978	202,939	262,033
流動比率 (%:a/c×100)	322.3	483.1	421.4	635.8	601.3
現金預金比率 (%:b/c×100)	169.3	282.9	267.2	426.5	459.1

流動比率は601.3%で、前年同期より34.5ポイント減少しました。現金預金比率は前年同期より32.6ポイント増加し459.1%です。両比率とも、理想値の条件を満たし、総じて短期の資金繰りは順調に見えます。